令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	交通政策課担当課長 若林 篤	
共創-07	実施事業	公共交通支援事業	自治事務	主管課 交通政策課
			法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	総合交通	施策の方針	公共交通機関の輸送力の向上と利用の促進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため。
効果	公共交通機関の輸送力の向上と利用促進を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

・鎌倉市移動円滑化基本構想に基づき、公共交通事業者が実施するエレベーター設置について支援した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	人口	176,308人	人口	
	世帯数	81,150世帯	世帯数	81,763世帯	世帯数	82,444世帯	
運営資源状況	事業の対象者数		事業の対象者数		事業の対象者数		
	決算値(千円)	0	16,666	当初予算(千円)	0		
	国県支出金		8333	国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	0	8,333	一般財源	0		
	人員配置数	0.5	0.5	人員配置数	0.5		
事業経費運営	人件費(千円)	3,934	3,966	人件費(千円)	3,889		
	総事業費(千円)	3,934	20,632	総事業費(千円)	3,889		
	市民1人当りの経費(円)	22	117	市民1人当りの経費(円)	22		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいか	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有効性	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
公平性	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいか	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
	受益者負担は公正・公平か	・負担未導入 -2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	・協働実施済 -2. 既に市民等と協働して適切に事業を実施している
		協働実施済の場合のパートナー 公共交通事業者

事業内容の方向性	a: 事業内容を見直す	見直しの種類	拡大	見直しの内容	事業へ統合
	b: 事業内容は現状通りとする		縮小		
	c: 事業を休止又は廃止する	その他			
	d: 他事業と統合し、本事業は廃止する				

予算規模の方向性	A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	平成31年度は、エレベーター設置工事が予定されていないため、予算措置はなし。
	B: 予算規模は現状維持とする		
	C: 予算規模を縮小する		

総評(評価に対する考え方、根拠等)	<p>・移動等円滑化の促進に関する基本方針(平成23年3月31日 国家公安委員会、総務省、国土交通省告示第1号)では、3,000人/日以上の利用がある駅にエレベーター等を設置(バリアフリー化)し、段差の解消等を図ることを目標としており、公共交通事業者はこの基本方針に従い設置を進めている。そのため、この基本方針及び鎌倉市移動円滑化基本構想に基づき、公共交通事業者への支援を継続していく必要がある。</p> <p>・対象となる駅のエレベーター設置についても、公共交通事業者への支援を行う必要がある。</p>
-------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題 (前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 湘南モノレール富士見町駅におけるエレベーターの設置 湘南モノレール湘南深沢駅におけるエレベーターの設置 	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> 市民が快適に公共交通機関を利用するために、富士見町駅の下りホームについて、交通事業者と協議し、エレベーターの設置に向けた支援を行った。 	解決 一部解決 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	湘南深沢駅のホームについては、事業者から「事前に地盤調査を行ったところ、想定よりも地盤が軟弱であることが判明し、工事の内容を見直す必要が生じ、工程の見直しの結果、平成30年度中の工事着手が困難となり、平成31年度から令和2年度にかけて工事を行うこととしたい。」との報告があったためエレベータ設置工事を見送った。	

他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名								
他市実績								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

事業実施に係る指標

指標の内容	3,000人/日以上の利用がある市内の駅のうち、バリアフリー化を達成した駅の数					単位	駅	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)		
移動等円滑化の促進に関する基本方針において、3,000人/日以上の利用がある駅はエレベーター設置等のバリアフリー化をするよう義務づけられているため。	目標値	18	18	18	18	18	18		
	実績値	13	14	16.5	16.5	17			
	達成率	72.2%	77.8%	91.7%	91.7%	94.4%			

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> 上りと下りのホームがある場合、両方が完成すると1駅とカウントするので、片方だけエレベーター設置等のバリアフリー化の整備をした駅は0.5としている。 支援事業は1年につき1箇所であるが、市の支援を得ずに交通事業者が単独でバリアフリー化した駅もある。
-----------------------	--